

令和 8 年 第 1 回定例会

(令和 8 年 3 月 6 日)

総務民生委員会委員長報告

(視察報告)

総務民生委員会先進地視察報告

総務民生委員会先進地視察報告を行います。

総務民生委員会は、去る2月3日から4日にかけて、兵庫県川西市、奈良県大和郡山市を行政視察いたしました。

はじめに、兵庫県川西市は、現在人口約15万人の都市であります。1990年代に大規模ニュータウンへ同世代が一斉入居した結果、現在は高齢化が急速に進行し、高齢化率31.6%、後期高齢化率20%。軽度認定者が多く、介護給付費は比較的低水準。住民主体の活動が活発な地域が多いという特徴があります。要介護化の時期の後ろ倒し、要介護化後の重度化防止、元気な高齢者の状態維持が必要との認識のもと、福祉部と健康医療部との共同し、令和7年度に、介護予防・健康ポイント事業「笑顔ミライちょきん」を立ち上げられました。

まず、「介護予防ポイント事業」ですが、「通いの場」への参加や地域住民が主体的に行う「生活支援活動」などの、高齢者の社会参加や介護予防に資する取り組みへの参加の動機付けとなるようポイント付与を行い、介護予防の推進につながることを目的とされています。事業の対象者は、市内在住の65歳以上の市民。および介護予防に資する取り組みの支援に関わる40歳以上の市民とされています。付与ポイント数は、1回の活動につき一律50ポイント。ただし年間上限5,000ポイントとなっています。1ポイント1円とし、50ポイント単位で、電子マネーや金券に交換できます。ポイント付与の対象となる活動は、「通いの場」や「認知症カフェ」での活動や参加、地域住民が主体的に行う生活支援活動、介護予防・認知症予防に係る講座等での活動や参加など活動数は1,70

0を超えています。

つぎに、「健康ポイント事業」ですが、高齢者や働き世代の市民が自らの健康状態に関心を持ち、健康づくりに取り組む動機付けとなることを目的とされています。対象者は、市内在住の40歳以上の市民で、1日に目標歩数を歩くと健康ポイント1ポイントが付与されます。目標歩数ですが、40歳から64歳は、8,000歩。65歳以上は6,000歩です。1月に16ポイント以上貯まると自動的に抽選に参加でき、当選すると1,000円分のキャッシュレスポイントに交換できます。

これらの事業は、自身のスマートフォンでアプリをダウンロードすることで活用することが出来ます。スマートフォンの利用に際しては、民間事業者と連携し事前説明会や講習会を複数回実施されて、現在もコールセンターを設置し、サポートをされておられます。令和7年12月現在の登録者数は、事業の対象40歳以上の人口10万人の5%を達成されておられました。

続きまして、奈良県大和郡山市の「不登校対策プログラムおよび学びの多様化学校分教室「ASU」」について報告いたします。

大和郡山市には小学校11校、中学校5校を有しています。大和郡山市も全国同様に不登校児童生徒数が増加傾向にあり、令和7年に「大和郡山市不登校対策総合プログラム」を策定され、「児童生徒が不登校（傾向）になった場合の取組」だけでなく、「児童生徒が不登校にならないための取組」の二つの柱を軸に、学校へ行くことの意義や楽しさを感じられる「魅力ある学校づくり」を目指して取組を進めておられます。

不登校になった場合の校内での対応の一つとして、2024年度から小・中学校各1校に「校内教育支援センター」の設置と活用が

始まり、令和7年度は設置が拡大されているようです。登録児童生徒数は増加しており、一定の効果は実感あるものの運営方法は模索中とのことでした。

学びの多様化学校として、分教室「ASU」は開校して22年。2003年に教育特区指定を受けて2004年4月に学科指導教室「ASU」として開室され、2023年に郡山小学校・郡山中学校分教室「ASU」として新たにスタートしました。「校内教育支援センター」は、学校へ戻ることを目標としていますが、分教室「ASU」は、子どもが元気になること、子どもたちが自信をつけ、新しい一歩を踏み出すためにエネルギーを蓄えることを目指しています。

分教室「ASU」の特色として、小・中学生ともに総授業時数の3割程度削減し、独自の教育課程と評価を策定して授業を進めています。特色ある教科として、「スポーツタイム」「わくわくタイム」「いきいきタイム」「チャレンジタイム」や「あゆみタイム」があります。「チャレンジタイム」では、自分で計画を立て、学びたい学習に意欲的に取り組む時間です。また「あゆみタイム」では、自己認知や他者認知を深め、「生きる」という課題に向かう力を育成する時間などがあります。また、高校を受験する際は、調査書等は郡山中学校分教室「ASU」で作成し提出します。

また、分教室「ASU」内に併設されて、「あゆみルーム」があります。不登校になった児童生徒のための、学校外の居場所となり、家から外に出るきっかけをつくり、スタッフや他の子どもたちと交流しながら、学びを保証し、社会的自立を目指します。児童生徒の状況に応じて、元の学校に戻るか、「あゆみルーム」を継続するか、分教室「ASU」に正式入室するかを検討します。

分教室「ASU」の教職員配置状況は、校長、教頭は、郡山小学校・郡山中学校それぞれ兼務で配置されています。県の補助費での採用教職員が4人、市費の採用教職員6人、スクールカウンセラー

3人とのことでした。分教室「ASU」の卒業生の多くは、高校へ進学されているとのことでした。

また、大和郡山市不登校対策総合プログラムでは、子どもや保護者への相談体制が整備されているのも特徴と感じました。不登校の未然防止体制として、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、臨床心理士との連携で相談窓口を設置されています。また、不登校になった場合も、スクールカウンセラー、医師等の連携体制や、ASU カウンセリングステーションの設置。そして「あゆみルーム」など、子どもの状態によって相談窓口対応があります。

「学校に来ることが出来ない子ども」あるいは「学校に来ない子ども」への対応、子どもたちの不安や悩み、困りごとに対応しようとする熱意を感じました。

今回、川西市と大和郡山市の先進地視察を実施しました。今回の視察で学んだ事例等を今後の取り組みに提言できればと感じたところです。

今回の行政視察には、多くの行政職員の方、議会の方々の歓迎を受け、内容も充実した2日でした。この間事故無く過ごすことができ、改めて関係者の皆様に感謝申し上げます。

以上で、総務民生委員会先進地視察報告を終わります。